

文学部学外活動応援奨学金 実施報告書

ドイツ・ベルリンにおける
芸術活動とその需要形態について

文学部ドイツ語文学文化専攻 23E1309004L 山本未来

〈採用コース〉

文学部学外活動応援奨学金 A コース

〈活動場所〉

ドイツ（ベルリン・フランクフルト）・プラハ・ウィーン

〈活動期間〉

2025/8/29～2026/2/28

〈目次〉

1.活動目的

2.活動概要

3.活動報告

3.1 フランクフルト映画博物館8/29

チケット：1,037円

3.2 Technik Museum 8/30

チケット：1,037円 + Berlin Wellcome Ticket 4,648円

3.3 Berlin Philharmonie 8/30

チケット：8,801円

3.4 シャルロッテンブルク宮殿8/31

チケット：1,871円

3.5 Alte National Galerie 9/9

チケット：無料

3.6 Hamburger Bahnhof 9/23

チケット：無料 図録：12€

3.7 Gedenkstätte Deutscher Widerstand 9/30

チケット：無料

3.8 Berliner Ensemble 10/3

チケット：42€

3.9 Berlinische Galerie 10/27

チケット：6€

3.10 ミュシャ美術館 プラハ 11/10

チケット：9.3€

3.11 Bode Museum 11/2

チケット：5,356円

3.12 Imperial Treasury/美術史医術館 ウィーン 11/16

チケット：30€

3.13 ベルリン楽器博物館 12/20

チケット：5€

3.14 Berliner Dom Weihnachtsoratorio 12/21

チケット：4,432円+楽譜代16.5€

3.15 Berlin Philharmonie Silverster Konzert 12/30

チケット：105€

3.16 フンボルト博物館 1/3

チケット：5€

3.17 フンボルトフォーラム 1/3

チケット：7€

3.18 Staat Oper Berlin Wozzeck 1/4

チケット：42€+Vor-Führung 5€

3.19 Neue National Galerie 1/11

チケット：25€ (Jares Karte Classic)

3.20 Gemälde Galerie 1/18

Jales Karte

3.21 Schloss Köpenik 1/24

Jahres karte

3.22 Deutsche Kinemathek 1/25

チケット：入館無料期間

3.23 Berliner Philharmonie SKO/Konzerthaus Berlin KSO

チケット：12€

3.24 Altes Museum 2/17

チケット：Jahres Karte

3.25 Neues Museum 2/19

チケット：Jahres Karte

3.26 Kupferstich Kabinett 2/19

チケット：Jahres Karte

3.27 Komische Oper 2/21

チケット：12,142円

3.28 Sammlung Scharf-Gerstenberg 2/25

チケット：Jahres Karte

4.まとめ

1.活動目的

本奨学金を取得することの目的は、ドイツと日本での文化芸術活動の比較である。私はベルリン自由大学での留学で、文化の中心地とも言われるベルリンに約半年間滞在する。ベルリンには日本人でも多くの人が知る Berliner Philharmonie や Museum Insel といった歴史的な博物館が一堂に会した島がある。この機会を利用して授業とのバランスをとりながらではあるが、できる限り自分の足でこれらの施設に訪れ、帰国後の学問に活かしていく。

具体的な成果として、入学した当初から興味のある音楽や演劇についての卒業論文執筆が挙げられる。3年生前期の現時点ではテーマは確定していないが、卒業論文を書いて大学院に進学することを視野に入れている。このために今回の活動は非常に有用だと考える。また現在、学芸員資格課程を受講している。ベルリンでの様々な博物館への訪問は今後の博物館実習や、卒業後の進路として考えられる学芸員になった際の展示計画に役立つと考える。

2.活動概要

活動場所：ドイツ（ベルリン・フランクフルト）

元々予約していたコンサートやミュージカル、美術館に訪問する。ベルリンの国立博物館には年間パスポートを買った。実施計画書作成当初はベルリン以外での活動はしないと考えていたが、ドイツのどこに行っても博物館や宮殿が観光名所として有名であった。また、それらが日程を決めずに気構えることなくフラッと入ることができるという性質がドイツでの文化、芸術活動である。

活動期間：8/29～2/28

私の留学期間は 10/13～2/14 である。9/1～10/10 までは語学クラスがあるため少し早くドイツの到着し、その間も宮殿やコンサートに行った。語学クラスでは午後の活動としてガイド付きの博物館ツアーに参加することもできた。これらは自分でチケットを払わずに参加できたが、自分では選ばない施設や興味深い博物館展示形式であったためまとめることにする。また、ベルリンの国立美術館は年間パスポートを買って無料で入ることができたため、チケット代をかかないこととする。

3.活動報告

3.1 フランクフルト映画博物館 8/29 チケット：1,424 円



・展示室が2階と3階にある。2階では映像がどのようにして今の形になったのか、万華鏡のような道具から学ぶことができる。3階では今の映画で使われた模型やプロンプトなどを見ることができる。

・3階には体験型の展示が多くあった。自分が映像の中に入ったように見える仕掛けや、カット数を数えるゲームが置いてあった。特に、映画の音に注目した展示ではつのスクリーンと三方向に置かれたスピーカーが使われ、注目したことのない映画の要素や見たことのない映画を体験でき長い時間滞在することができた。

・来館者はあまり多くなく、展示も多くはないがゆったりとした空間だった。子供連れの家族が三組ほど来ていた。所要時間は1時間ほどだが、教育普及やイベント参加など地域に根ざした施設だった。

3.2 Technik Museum 8/30 チケット：1,037 円 + Berlin Wellcome Ticket 4,648 円



↑休憩用のベンチに子供が入ることが出来るサイズの空間がある。

・展示室は船・飛行機館、列車館、車館の三つの建物に分かれている。全て圧倒的な物量で1日では回りきれないほどの大きな博物館だった。列車館は元々の駅舎の形を利用して、展示を見ているというよりは実際にドイツの駅に入り込んでいるように楽しむことができる。

・展示物のほとんどが人よりも大きい。それを展示するだけ敷地と、飛行機などを吊るしても安全な地震のない土地であることを感じられた。展示物に実際に乗ったり入ったりすることができるのも日本と違う点だった。さらに船の空気抵抗などを自分で作り出せるような展示もあり、科学館のような機能もあった。飛行機では戦争の歴史がわかるオーディオ展示とパネルが作られていた。

・夏休み中だったこともあるが、子供がとても多かった。来館者も多かったが、それほど混みすぎているわけでもなく、展示室によっては一人だけになることもあった。物量が多いため飽きさせない工夫が各所にあったがそれでも敷地がとても広いので、何日もかけて回るのを前提としていたと感じた。

3.3 Berlin Philharmonie 8/30 チケット：8,801 円



・指揮者を見るために部隊の後ろの席に座った。Berlin Musik Fest の開幕コンサートだったため、ベンチ席まで人で埋まっていた。後ろの席だとホルンがよく聞こえることや、演奏者の動きが見えるといった普段感じられない演奏を楽しめた。曲目は難解な曲が多かったが、視覚的な情報がいつもより多かったため、飽きることがなかった。正面からでは譜面台に隠れて見えないが、どの楽器が構えたかを見ることが出来るため次に主旋律を演奏するのがどの楽器かなど理解することができた。

・クラウス・マケラの指揮は表情や動きから楽譜が見えるようだった。音楽を表現していて、リズムをとっていない時や表情がとても動く時もあった。

・Berlinにとって大切なコンサートだったこともあり、客層は様々だった。服装も全員がバラバラでフォーマルからカジュアルな服を着ている方がいた。

3.4 シャルロットテンブルク宮殿 8/31 チケット：1,871 円



・チケット販売員の方が日本語で対応してくれ、音声ガイドにも日本語があった。このおかげでとても広い敷地内を迷わずに進むことができた。

・煌びやかな装飾で埋め尽くされた部屋部屋はひとつずつ詳細に見てまわったら1日以上かかるだろうが、各部屋にそれほど大差があるわけではないので、人の流れは早かった。私にとって初めての西洋の宮殿で各部屋における豪華さが新鮮で装飾品で酔ってしまいそうだった。今後、各地で宮殿を訪問するが、その地域の歴史をそれぞれの視点で学ぶことが出来るため、宮殿はドイツ語圏の歴史を体系的に知ることができる場所なのだと知った。

・夏休暇中だったため観光客が多くドイツ語以外の言語も多く聞こえた。

3.5 Alte National Galerie 9/9

チケット：語学クラスで言ったため無し



- ・ギャラリートーク付きのチケットで、2時間ほどクラスの人と回った。それでも全ての作品を見終わることができないような規模の美術館だった。
- ・ほとんどが常設展示で、宗教画から印象派の作品まで揃っている。この後に特別展示にも訪れた、風景画から現代のアーティストの作品まで展示する作りで、幅広い絵画に触れられる施設であることがわかった。
- ・建物自体も大理石で作られ、厳かな雰囲気の中芸術を楽しむことができた。

3.6 Hamburger Bahnhof 9/23

チケット：語学クラスで言ったため無し 図録：12€



- ・博物館の名前通り、元々は駅舎だった建物に現代芸術を展示している。天井の高い駅舎は、規模の大きいインスタレーションと相性が良かったように思う。
- ・作品は基本的に部屋全体を使っており迫力が感じられた。音や光を使ったオペラ風の展示はその世界に入り込むことができた。この部屋ではプロジェクターで昼や夜を壁に映し出すスペースに寝転がれるソファがあり、作品の中の「一日」を体験した。自然の材料を使っている展示物は嗅覚を使うようなものもあり、視覚以外からも楽しめる博物館であった。

3.7 Gedenkstätte Deutscher Widerstand 9/30

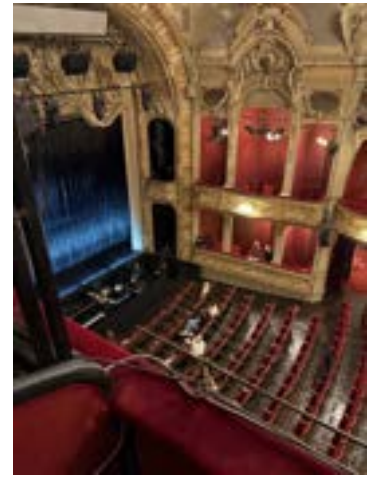
チケット：無料



- ・ナチズムに対抗した人々についての展示で、自分であつたら選ばない施設だつた。ここでのツアーはドイツ語で行われ、歴史に関する用語も多く出てきたので理解するのが難しかった。
- ・ガイドツアーをしてくれた方の話し方が非常に素晴らしかった。日本では他のお客様を気にしながらの少し小さい声でガイドすることが多い。Gedenkstätte では強い抑揚とはっきりとした声で演劇のような説明を聞くことができた。私たち学生の他に多くの人がいたわけではないが、数人いた人も少し聞いている場面もあった。

3.8 Berliner Ensemble 10/3 チケット：42€

演目：Dreigroschen Oper (三文オペラ)



・ブレヒトの像があるブレヒト広場に面する Berliner Ensemble でブレヒトの戯曲を見ることができた。さらに、一年前に三文オペラは高橋慎也先生の文化講義でブレヒトの異化効果について学んだことがあった。

・9:30 開演、18:30 会場だったため開場に合わせて到着したが、リハーサル中だった。劇場の中も歴史的建造物のような作りになっているため、リハーサルの声も待合室に聞こえてくる。発声練習や楽曲の練習、拍手などが聞こえてきた。

服装や客層：服装はホームページに書いてあるとおり規定はない。ジーンズやミニスカートを履いている方もいた。スタッフの人もBerliner EnsembleのTシャツにジーンズや革のジャケットなど非常に今時の服装。私が1時間前から待機していると声をかけてくれ、案内や英語のパンフレットを手渡してくれた。

客層は皆親子や夫婦、友達が多かった。一人で来ている人はほとんどいない。子供連れの家族も多く、小学生くらいのお客さんも来ていた。そして、開場に合わせてくる方はカフェで何かを食べるために1時間前に来ているようだった。ここでもチケットを紙に印刷している人が多い印象。人の入りは多く、後ろの席まで埋まっていた。

劇場：証明とスピーカーは丸見え。そして音の響きが日本のホールよりも臨場感があった。役者さんがマイクを使わずに演じているのか、機械を通して声が聞こえている感じがしなかった。

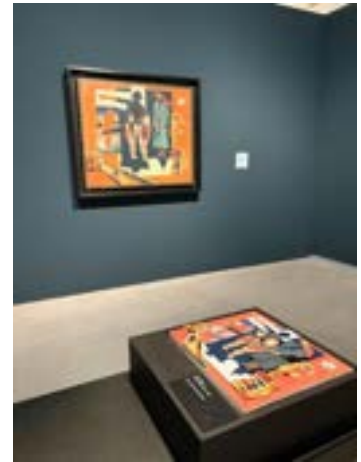
オーケストラは小編成で、クラリネット、サクソ、フルートを一人の奏者がコンバートしていた。オーケストラピットにも舞台が少し入り込んでいる。劇場があまり響かないことによって楽器のキーの音も微かに聞こえた。

演出：

・観客に話させる、作者の名前をセリフ内で言う、オーケストラとかけ合うなどといったブレヒトの異化効果を感じられた。

- ・ジャングルジムのような舞台装置で、俳優の身体能力に驚かされた。しかし、メッキースとポリーの心の距離が可視化されていた。
- ・最後に“Love Me“というライトが降りてきた。

3.9 Berlinische Galerie 10/27 チケット：6€



・一階には二つの映像室があり、現代的な映像を放映していた。2階は時代ごとに絵画が展示されていた。

・絵画を立体に縮小し素材を布や金属にし、『触れる展示』を実施していた。人物画はもちろん実施していたが、キュビズム的な複雑な構造をしている絵画にもついていた。私も目を瞑り触ってみたが、最初に見ているにも関わらず理解は難しかった。しかし絵画解説が点字で描いてあったため、展示に沿ってさわれば理解ができたのかもしれない。

・戦争絵画などが多い中、地元の小学校と連携をして子供が描いた保護者の似顔絵を展示しており、それが鑑賞者の憩いの場となっていた。

3.10 ミュシャ美術館 プラハ 11/10

チケット：9.3€



・プラハでは、一人の画家を取り上げた、ミュシャ美術館に行った。プラハの街の随所にミュシャの絵画や文字などが見受けられ、街にとってどれほど重要な人物であるのかわかった。

・私たちが想像する画家の作品と違い、商業用のポスターなどが主要な作品であったミュシャ。版画を主とする浮世絵発祥の日本でもかなり有名であると考え。しかし、私たちが知っている作風になるまでアカデミックな画法も勉強していたことを初めて知ることができた。

・一人の画家の作品のみ置いてあるため、規模は小さいが作風の変化や生い立ちを街との関係も含めて学べ、旅行がより楽しくなるような博物館であった。

3.11 Bode Museum11/2

チケット：5,356 円



- ・ Bode Museum では Staat Oper Berlin のオーケストラ団員による四重奏を聴くことができた。また、女声のソロも聴くことができた。絵画展示がある空間で音響などが整っていない中でのコンサートはいつもより音が鮮明に聞こえた。席は会場への入場順であるため、前列では特に臨場感ある音を楽しむことができる。しかし、席に座って前だけを見て聴くため、絵画を見ながら演奏を聴くことはできない。
- ・ 曲目が難解であったためか、来場者の年齢層は高く学生は多く見られなかった。演奏者は少し若く、第一バイオリンの方はデジタル楽譜を利用していた。
- ・ 無料で配られるパンフレットの中には歌詞も書いてあり曲目を最大限楽しむことができた。

3.12 Imperial Treasury/美術史美術館 ウィーン 11/16

チケット：30€



- ・ウィーンでは年間パスポートを買って二つの美術館に訪問した。
- ・一つ目は宝物館だ。普段あまり見ない所蔵品が多くあり、それまでベルリンの美術館でためてきた美術に関わる語彙が通用しなかった。材質などの説明でさえ読めないことがあり、黒檀というドイツ語などを知る良いきっかけであった。
- ・大規模な美術館ではないが、一つ一つの細かい装飾を見るために回るのは時間がかかり、各棚に人が数人集まっていた。
- ・二つ目は美術史美術館である。ここはミイラから絵画まで見られる非常に大きな美術館だった。一日でも回り切ることはできなかった。
- ・絵画はウィーンにゆかりのある画家の作品が多数展示しており、国全体の美術に対する政策がどのようなものかを窺い知ることができた。

3.13 ベルリン楽器博物館 12/20

チケット：5€



・ベルリンフィルの隣にある楽器博物館。非常に混んでいるということではなく、ゆっくりとスマホで利用できるオーディオガイドから楽器の音を出しながら回ることができる。

・管楽器から鍵盤楽器までを演奏してみせる学芸員の方が進めるツアーに参加した。ただ鑑賞するだけでなく、生の音を聞くことができるのは楽器博物館ならではのと思った。

・ツアーに参加しなくてもオーディオガイドでもその楽器の音を確認することができる。しかしメロディーでその楽器特有の音を聞くと、どんな時代にどんな用途で作られたのかよりはっきりとわかった。最後には管楽器や打楽器の音も出せる鍵盤楽器でその季節（当時はクリスマス）に合った曲でコンサートをしてくれた。

・ドイツ語がわからない方も参加しており英語で話す場面もあったが、口頭での説明は短く、演奏がメインのツアーで非常に面白かった。幼い子は彼に呼ばれて実際に演奏を体験できていた。

3.14 Berliner Dom Weihnachtsoratorio 12/21

チケット：4,432 円 + 16.5€(楽譜代)



・開演時間前から多くの人が並び、楽器演奏に近い席はすぐに完全に埋まっていた。子供は少し早い時間に同じプログラムがあったため、私が行った回には少なく、年齢層は高かった。席はパートごとに分かれており、秩序立っていたがほぼ満席であったため二階席などはパート関係なく座っていた。

・発声練習などはなく、指揮がすぐに始まった。楽器演奏はしっかりと当時の楽器で行われた。とても長い曲なのにも関わらず、一般の人々と思えない聖歌隊のような歌を聴くことができた。演奏は少し飛ばしながら行われたが、指揮者の指示を逃すことなく完璧な統率が取れていた。そのクオリティの高さから、クリスマスオラトリオがドイツ人にとって大切な歌であると気がつくことができた。

3.15 Berlin Philharmonie Silverster Konzert 12/20

チケット：105€



・チケット팅ではオンラインであったにも関わらず回線が混んでいて、ウェイトティングリストに入った。

・当日はやはり満席で、観客にはドイツ人も観光客も老若男女が聞きにきていた。服装はほとんどの方がフォーマルだった。

・開演 40 分前から聞くことのできる解説を聞こうと考えていたが、始まる 10 分前にはもう満席になっており、聞くことができなかった。

・席は広報の中心に座った。テノール歌手の声とオーケストラの音をバランスよく聞くことができた。

・一曲目のオーバチュアなどは思っていたよりもテンションを抑えて演奏しているイメージだったが、メインのチャイコフスキーのロミオとジュリエットでは最高潮にエネルギーを感じられた。

・アンコール前に指揮者のキリル・ペトレンコが最後に今年の感謝と来年も健康に過ごし、よくベルリンフィルに来てくださいと謝辞を話したが、それ以外の司会はなく、曲間も短かった。

3.16 フンボルト博物館 1/3

チケット：5€



- ・日曜日で雪の日だったため、たくさんの親子で埋め尽くされていた。
- ・恐竜や惑星、鉱石など様々なジャンルの展示を楽しむことができる。しかし一番割合が多いのは動物の剥製や模型で、縦に高さを出して展示しており迫力を感じられた。自身のある国では考えられないと思った。鳥の剥製のみ集められた部屋では鳥の紹介だけでなく、環境問題についても触れられていた。
- ・科学史における重要人物の紹介では、肘を置くことで声聞くことができる展示の仕方があり、科学や物理を使った工夫で面白かった。惑星の部屋では天井にプロジェクターが吊るされ、寝転がるとプラネタリウムが見られるスペースがあった。
- ・説明の文章の書き方は優しい言葉が使われ、体験型の展示も多いことから、全体的に子供が飽きずに楽しめるような博物館であった。

3.17 フンボルトフォーラム 1/3

チケット：7€



・ベルリンの歴史についての特別展では特別な機器を使い、自分の政治的な思想を記録した。受付の際に機械の説明を受けたが、日本語を話せる大学生ぐらいの受付の方が対応してくださった。世界の人々に向けてベルリンについて知ってもらふ展示のため、スタッフの方もグローバルな対応ができるようになっているのだと感心し、ありがたいと思った。

・ここでは、ベルリンの歴史を資料だけでなく、映像、音、味まで使って説明していた。写真のような資料も望遠鏡をのぞいたり、稼働するプロジェクターに映したりなど体を動かし、五感を使って楽しめる展示であった。

・常設展は世界の一次資料を多量に鑑賞することができる。アジアといったヨーロッパ以外の資料がある部屋はその国にあった雰囲気や各部屋で表現していた。遺跡や日本の茶室などはその空間丸々再現されていて、各国に旅行しているような気分になることができた。

・細かい石器や武器なども棚を壁に沿わせずあえて囲いのように置くことで、わざわざ中に回り込まないと見えない展示の仕方であった。これで多国の全く違う文化をその囲いの中では統一感を持って展示し、その世界に入り込んだように見せていた。空間を余すことなく使っており、膨大な資料を展示する際の工夫を感じた。

3.18 Staat Oper Berlin Wozzeck 1/4

チケット：42€+Vor-Führung 5€



- ・開演前に建物についての解説（Vor-Führung）があった。五組ほどしか Vor-Führung に参加していなかったのに関わらず完売だった。オーケストラの音出し時に舞台内の解説に入るため、少し聞き取りづらかった。
- ・客席に柵があって、前の観客が前傾したら視界が遮られる。それで注意されることなく、じっくり見たい場面で寄りかかると注目できる。
- ・従業員さんがパーカーなどではなく、しっかりとしたスーツを着用していた。大小のパンフレットを現金のみで取り扱っていた。観客もほとんどがジャケットなどのフォーマルな服装だった。しかし、雰囲気はそれほど荘厳ではなく、演劇が始まる前には遠い席にいる観客同士で手を振り合う姿などが見られた。
- ・字幕にはドイツ語と英語のどちらも出ており、非常にわかりやすかった。

3.19 Neue National Galerie 1/12

チケット：25 ユーロ (Jares Karte Classik)



- ・第二次世界大戦から現在までの作品が展示されている。鑑賞している人は比較的若い人々であった。
- ・私は展示室を時間を遡るように反対からまわってしまったが、特に支障なく回ることができた。映像や電気、立体の作品もあったが、絵画が多くあった。約半分ほどは戦争に関わるものや政治的意味のある展示で、政党のポスターなども展示物として展示されていた。
- ・子供が自分で自由に絵を描くことができる部屋があり、それらの絵を展示してあった。

3.20 Gemälde Galerie 1/18

Jales Karte



- ・ドイツだけでなく、イタリアやフランスの宗教絵画など多くの名画を鑑賞できた。
- ・絵画解説のギャラリートークと他のイベントを展示室中で行っており、イベントでのバイオリンの演奏なども絵画鑑賞中に聞くことができた。
- ・絵画がないスペースがいくつかあり、そこにはベンチが設置されているため、小休憩をしながら見ることができる。
- ・小さい部屋ごとに明確にテーマが分かれており、情報量の多さで疲弊してしまうことがないような展示の仕方であった。

3.21 Schloss Köpenik 1/24 Jales Karte



- ・ベルリンの中心部からは離れているためか、鑑賞者も非常に少なかった。
- ・修復した棚や食卓の再現など、資料だけでなく、この宮殿全体の歴史に関する情報が積極的に展示してあった。
- ・一番上の階には食器や銀細工の研究展示がされていた。綺麗に並べるといよりは、各棚に種類ごとに設置するという形だったが集中して一次資料と向き合えた。
- ・研究展示の展示室は壁が一部ガラスでできており、建築の構造を見ることができたが、それに関する解説はされていなかった。

3.22 Deutsche Kinemathek 1/25 チケット：入館無料期間

- ・Kinemathek という名前通り、博物館ではあるが小物や衣装の展示は少なく大きなスクリーンで映像を見ることがメインであった。入場料が無料の日に行ったため映像をゆっくり見る余裕はないくらいに人でごった返していた。
- ・椅子がある小さい映画館のような部屋も行列ができており長い時間まった。映像毎に上映時間が決まっていた。私たちが入った時間は子供向けの短編映画で子供たちと保護者で席が埋まっていた。ドイツのアニメーションを見る機会はなかなかなかったので、貴重な機会だった。この映像には最後にドイツの連邦公文書館のロゴマークが映った。そのため、ドイツはこうした児童向けアニメも文化事業ととらえしっかりと保存していることがわかった。

3.23 Berliner Philharmonie SO/Konzerthaus Berlin KSO

チケット：各 12€



・私が留学していた大学の学生も入っている二つのオーケストラによる演奏会があった。オーケストラの他にも合唱団も演奏に参加してたくさんの人に舞台に立つ機会があることを知った。さらに、コンサートはベルリンフィルハーモニーとKonzerthaus Berlin というプロが演奏する会場で開催される。音楽大学などに通っていない学生もこのようなコンサートホールで演奏できることはモチベーションにも繋がるのが想像できる。

・ベルリンフィルのジルベスターとの差異はあるが全てがマイナスであるというわけではない。そういった違いを楽しめるのもベルリンでコンサートを聞く良さである。学生たちの方が機械的でなく人が演奏している温かみや熱を存分に感じることができた。このクオリティの演奏を 12€で聞くことのできる観客も恵まれていると思った。

・フィルハーモニーの会場は演奏者の保護者や知り合いで満席であった。

3.24 Altes Museum 2/17

チケット：Jahres Karte



- ・コレクションの全てが彫刻や金属品で絵画に慣れていたため少し驚いた。
- ・円形のホールにギリシャ神話に出てくる神々の像が並べられている姿は圧巻だった。違う作者の同じ神の像があり、同じアトリビュートが出てくるとどの神かがわかった。当時の人々がどのように彫刻を作っていたかを学ぶことができた。彫刻の前にはスケッチ練習に来ている方が学生から老齢の方までいて自由な雰囲気であった。

3.25 Neues Museum 2/19

チケット：Jahres Karte



- ・完全な民俗博物館であった。ベルリンやドイツで発掘された遺跡や骨なども見られた。Altes Museum と同じように絵画はなかったが映像やボタンを押して展示を見せるといった、子供達も飽きさせないような工夫は見られた。
- ・3枚目の写真は写真の注意喚起だ。ヨーロッパのほとんどの美術館で写真を許しているにも関わらず、ここにあるネフェルティティの胸像は一定の距離を保ってしか撮影をしてはいけなかった。完全な禁止ではなく利用者の期待と美術品の保護を両立している良い例であった。

3.26 Kupferstich Kabinett 2/19

チケット：Jahres Karte



- ・キャビネットのため、非常に小さく人も少なかった。しかし、Gemälde Galerieの2階部分にあり少ない時間で版画を見ることができるのはちょうど良かった。
- ・常設展示ではなく周期的に特別展を開催している。
- ・今回はトルコとの関係についての展示であった。戦争や移民の問題で、決してポジティブな歴史だけではなかった。小さい一部屋で歴史を学べるような特別展であった。

3.27 Komische Oper 2/21 チケットあり

チケット：12,142 円



- ・外観や舞台は現代的な作りであった。会場の 30 分前にロビーで演出の解説が始まったが、そんなに多くの観客が聴いている様子ではなかった。
- ・客層はバラバラで、マイフェアレディという演目もあり、中高生のグループも多かった印象であった。
- ・演出はほとんど有名な映画の書き割り通り進み、代償の蓄音機がアイコンニックな舞台装置であった。言語学の話だが発声練習のセリフが英語とは異なった。歌の歌詞だけはドイツ語と英語が表示されるためそのことに気がつくことができた。練習する母音も英語とドイツ語で違いドイツ語学習者にとっては身近な問題に思えた。私もヘンリー・ヒギンス博士に指摘されるのではないかと考えさせられた。

3.28 Sammlung Scharf-Gerstenberg 2/25

チケット：Jahres Karte



・これらのコレクションは Neues National Galerie での特別展でも展示されていた。非常に大きい絵画などはなく、時代として新しい絵画が充実したコレクションであった。美術館の場所も郊外なこともあり、来場者も少なかったが、併設されているカフェは賑わっていた。

・特別展では、絵画以外の新しい表現なども紹介していた。作品の題材も自然保護から死まで扱うような美術品を集め、アカデミックな作品展示とは一味違う空間を楽しめた。展示方法も入り組んだ迷路のようになっており、歴史を追うごとに進化していくドイツやそれ以外の美術を知ることができた。

4.まとめ

活動計画で考えていたよりもはるかに多くの施設に訪れることができた。学業の忙しさで、博物館やコンサートに行く気力がなくなるかもと心配していたが、施設に行けば行くほどもっと色々なところに行きたいと思うことができた。友人やタンデムパートナー、先生などがお勧めしてくれるドイツの博物館には日本では調べられなかった場所もあり、自分の視野が広がった。

約2年半中央大学多摩キャンパス内の講義室で見てきた授業資料を実際に見ることのできた半年間であった。特に演劇は3号館のプロジェクターに映る録画でしか見てこなかった。しかしこの留学で受けた演劇の授業では、映画と演劇の即時性の違いについて知ることになった。たとえば、演劇ではその公演の観客がした咳なども演劇の要因になったりする。その公演のその席にいないてはわからないことがたくさんあるのだ、とドイツの先生がおっしゃったのを覚えている。それを毎公演で体験できているのがとても嬉しかった。

ベルリンにある博物館は本当に多種多様であった。休日平日関係なく来館者で溢れ、博物館が一ヶ所に集まっているという街の特性を強く感じられた。他の国の博物館と比べてベルリンの博物館は、大きすぎたり小さすぎたりすることなく、鑑賞者がより集中して作品を鑑賞できるようになっていた。展示テーマは芸術だけでなく政治・民俗・歴史なども網羅していた。学校ではなく、体験で学ぶことのできる有意義な場という役割を再確認できた。実際、私もそれまで苦手意識があったドイツの歴史を気がつかない間に理解できたように思う。一緒に訪れた友人と頭を悩ませながら読んだ作品解説は、ドイツ語学習と、歴史の知識習得に非常に役立った。

この半年間、博物館の多くは友人と一緒に周った。多くの日本人学生がベルリンでの展示の情報収集をしていた。留学中彼らは「日本でももっと博物館に行けばよかった。日本に帰ったらもっと行く。」と言っていた。それはとても私にとって重要な言葉で、ベルリンで博物館の魅力に気がつくことがあったのだと思う。ドイツと日本の博物館の違いが何かは今では簡単に表現することができない。この答えは今回の活動で得た知識から四学年で向き合い、卒業論文という形で出すつもりだ。この奨学金による活動のおかげで卒業論文のテーマを音楽から博物館に帰ることを決定した。さらに、大学院にも進学し、日本のミュージアムを人々とより密接にするために研究していきたい。

最後にこの活動を日本での準備から活動中にもご指導いただいた、ドイツ語文学文化専攻教授の縄田雄二先生と、この活動を実現してくださった中央大学文学部に心より感謝申し上げます。